

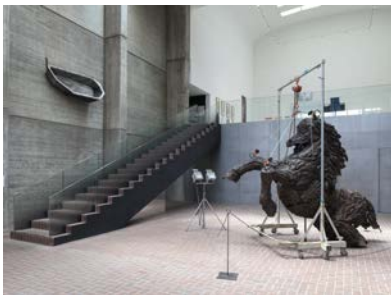
2023年展覧会スケジュールのお知らせ

Exhibitions 2023 Musashino Art University Museum & Library

MAU M&L
Musashino Art University Museum & Library

Press Release 2023.2.6

武蔵野美術大学 美術館・図書館が主催する2023年の展覧会スケジュールをお知らせします。みなさまのご来館をこころよりお待ちしております。



図版1.「令和3年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展」展示風景 2022年 撮影：稲口俊太

2022年度 武蔵野美術大学 卒業・修了制作 優秀作品展

会期：2023年4月3日(月)–5月4日(木・祝)

会場：美術館全館

本学学部卒業制作および大学院修了制作において、優秀賞を受賞した学生約100名の作品を美術館全館に展示する。アートとデザインを起点としたさまざまな表現領域を有する本学では、その作品形態は年々多様性を増している。学生が真摯に向き合い制作した作品を通して、本学における美術教育の成果を紹介する。



図版2. 若林奮《所有・雰囲気・振動—森のはずれ》
1981–84年 当館所蔵 撮影：山本紉

若林奮 森のはずれ

会期：2023年6月1日(木)–8月13日(日)

会場：展示室2・4・5、アトリウム1・2

現代美術において固有の彫刻観を提示した若林奮(1936–2003)。本展では、若林が本学在任時に学内工房の一部をそのまま彫刻化した「鉄の部屋」を含む《所有・雰囲気・振動—森のはずれ》の、約30年ぶりとなる再展示を試みる。自身を含めた自然の観察により、若林は世界をどう知覚し、思考したのか。没後20年を機に、本作含む大型彫刻を中心にその意義を再考する。



図版3. 三雲祥之助《家造り》1957年 当館所蔵

MAU M&L コレクション：絵画のアベセダー

会期：2023年6月1日(木)–7月2日(日)

会場：展示室3

タイトルにある「アベセダー」は仏語でABCD、入門書という意味を併せ持つ。Aはanimal(動物)、Bはbalance(バランス)など、AからZに至る多様な項目を設定し、当館の油絵を中心としたコレクションを紹介。単語帳のように展開する独立した項目のもと、普段は隣り合わないような作品を並置することで、作品の新たな魅力と絵画のエッセンスに触れる。



図版4. 三浦明範《VANITAS》2011年

三浦明範——vanitas vanitatum

会期：2023年7月15日(土)–8月13日(日)

会場：展示室3

画材の探求に表現の可能性を広げてきた三浦明範。画業50年を迎え、油彩とテンペラの混合技法による彩色作品から、シルバーポイントによるモノクローム作品までを制作当時の言葉と辿る。描きながら探し続けている問いへの答え。画面に満ちる光と底知れぬ黒を前に、生まれて、死ぬこと、あえて直視しない事柄と向き合う。



図版5. 大辻清司《無言歌》1956年 当館所蔵

生誕100年 大辻清司フォトアーカイブ(仮)

会期：2023年9月4日(月)–10月1日(日)

会場：展示室3・4・5

当館では、大辻が残したフィルム原板やプリント、掲載誌、蔵書などをもとにアーカイブを構成し、15年にわたって研究を重ねてきた。本展は、研究の軌跡、とりわけフィルム原板のつぶさな検証によって得られた視座を軸に、写真家・大辻清司の真髄に接近すると同時に、アーカイブ活用の在り方、その先に何を見出すことができるのかを模索するひとつの試みとする。



図版6. 軽トラックを掘り起こす 1998年 撮影：大浦一志

大浦一志——雲仙普賢岳／記憶の地層

会期：2023年9月4日(月)–10月1日(日)

会場：展示室1・2、アトリウム1・2

1991年6月3日、多くの人命を奪った長崎県雲仙普賢岳の大火砕流。殉職した新聞記者のカメラに残った1枚の写真に突き動かされ、大浦一志は30年にわたり被災地域と東京を往還し、灰土に埋もれた民家跡から被災物を掘り起こし、記録し続けてきた。身体を通して「自然の脅威と人間の営み」に向き合う大浦のフィールドワークを紹介する。



図版7. 西田俊英《不死鳥》(部分) 2022-23年

西田俊英——不死鳥

会期：2023年10月23日(月)–11月19日(日)

会場：展示室3・4、アトリウム2

日本最大級の70メートルに及ぶ巨大日本面に挑むため屋久島移住した西田俊英が森の懐で受けた感動やインスピレーションを壮大なスケールで描いた《不死鳥》。本展では、この作品を核に、西田の原点となる少年時代の作品から、インド留学を経て、森羅万象を神とする日本人の心で、風景や動物、人物や花を愛情深く精緻な筆致で描いてきた画業の軌跡を追う。



図版8.「助教・助手展 2022」展示風景 2022年
撮影：いしかわみちこ

助教・助手展 2023 武蔵野美術大学助教・助手研究発表

会期：2023年12月4日(月)－12月23日(土)

会場：展示室2・4・5、アトリウム1・2、第10講義室

研究室の一員である助教・助手は、本学の教育の一端を担う一方で、作家、デザイナーなど幅広い領域で活動を展開する。彼らの多彩な表現が一堂に会する本展は、企画運営も助教・助手自身が携わり、各専門分野を生かしながら特色ある展覧会を作り上げる。

[施設概要]

武蔵野美術大学美術館

開館時間：11:00－19:00 (土・日曜日、祝日は10:00－17:00)

休館日：水曜日、展示準備期間、入構禁止期間

入館料：無料



図版9. 美術館外観

https://mauml.musabi.ac.jp/yearly_schedule/



お問い合わせ先：

武蔵野美術大学 美術館・図書館

東京都小平市小川町 1-736

phone: 042-342-6003

fax: 042-342-6451

<https://mauml.musabi.ac.jp>

広報担当

mail: prmsm@musabi.ac.jp

プレス用図版をご希望の方へ：

- ・下記の注意点を参照の上、ご希望の図版番号と、必要事項をEメールにてお知らせください。(お名前、ご所属、電話番号、Eメール、媒体名、掲載号、発行予定日、コーナータイトル)
- ・指定のクレジットおよび所蔵を必ず明記してください。
- ・原則的には図版のトリミング、部分使用、文字載せはご遠慮ください。
- ・掲載内容確認のため、発行前にPDF等で原稿をお送りください。
- ・紙媒体は掲載見本のご寄贈(掲載ページのPDF可)、ウェブ媒体は掲載ページのURLお知らせをお願いします。